

(別紙様式)

心の健康問題の正しい理解のための主体別の普及・啓発方策の具体例

検討会構成員名	高橋 清久	実施主体	ときわ会 あさやけ第二作業所
普及啓発活動名	大学の授業における発表	活動時期	H15. 11

対象者 ー東京家政大学学生

実施者 ーあさやけ第二作業所職員・利用者

実施場所ー東京家政大学教室

活動理念ー教育の場にも精神障害に対する正しい理解が普及することを願い機会あるごとにスタッフ、当事者が参加を図る。

具体的な活動内容

- ・「精神保健福祉論」の授業に参加
- ・地域における社会復帰施設の役割について説明
- ・利用者の体験発表（別紙）

工夫した点

- ・精神に障害がある人が地域生活を送る上で困難を感じていることを具体的に話す
- ・社会資源を利用して改善されたことを具体的に話す

得られた効果

- ・精神に障害がある人の生活の様子が理解できたという学生の反応があった（別紙）
- ・出会いや交流から理解が広がることを実感できた

今後の方針

今後もこのような活動を継続していきたい

文責：ときわ会 あさやけ第二作業所スタッフ

(注意) 複数の具体例がある場合は活動ごとに記載下さい。2枚以上になっても結構です。
参考資料がありましたら、併せて情報提供ください。

心理教育 学科 _____ 専攻 _____ コース _____ 年 _____ 組
 学籍番号 _____ 氏名 ○○○○

○○さん・○○さんの話が聞けてとても良かったです。

中でも印象に残ったのは、○○さんの話の中で、金銭管理の困難さが、
 食事に影響し、病状悪化へとつながってしまっている点でした。

授業の中で、精神疾患を持つ人が、日常生活において自信のない項目に、
 食事を作ることや、公的施設の利用、お金の管理などがあると聞いていたが、
 生活する上での必要は事柄が、病状悪化へとつながってしまっている点で、
 話を聞き、改めて、社会の中で生活する上での課題が、見えやすくなりました。

また、福祉職や、医療者のサポートには、限界があることを知り、地域の人々のサポート体制の必要性も重要だと改めて考えさせられました。

また、精神疾患のある人だけでなく、身体・知的に障害のある人に対して
 数々の目的を達成し、施設が、障害を持つ人達が安心して暮らせる場となっていると

思いますが、単にサポートだけでなく、個人個人の求めるニーズがあるため、その

ニーズに合わせて、適切な相談や指導を提供してくれる場があるというのは利用者にとり

心強いと感じます。施設見学やボランティア活動など、またおしゃべりの機会を知りたいと

思いました。また、おしゃべりの歴史を聞き、最初から作業所や、障害者に対するサポート

システムが、置かれていたことなど改めて気がなされました。今では、当り前のように施設が

存在しているが、今までの過程には、大変な働きがあり、障害者に対する社会の理解

が得られていく時代があった事、そして、まだまだ課題があることを知り、障害者

と多く環境について私自身も考えたいと思えました。

東京家政大学「精神保健福祉論」での体験発表

2003. 11. 18

東京家政大学於

みなさん、こんにちは！自分は、〇〇〇〇といます。43歳です。小平市内にアパートを借りて一人で暮らしています。

自分の病気は、てんかんで発作があり、目の前に小さな青い光が右から左へ見える発作もありました。生活保護と年金をもらって生活していますが、お金がなかなか計画的に使えず、パチスロに行ってしまうことも多く、月の終わりころにはお金もなくて、カップラーメンばかり食べていた事もあります。リュウマチの病気もあり、栄養不足になると手足が痛む事があり、てんかんの発作も起きて入院してしまう事も何回も有りました。病院のワーカーに紹介されて支援センター「あさやけ」に行き、金銭管理をしてもらい、夕食会にも参加しました。それから、同じ建物にある、あさやけ第二作業所に通うようになり、やっと、規則正しい生活が出来るようになり、発作もほとんど起きなくなりました。

作業所では東都生協の会員に、毎週、配布するカタログを、一部7円で週2万セットを丁合しています。僕は機械での丁合を担当しています。初めてやった時は、職員と二人で、やっと出来るという感じでした。今は一人でこなせるし、入れ間違いも気が付くようになりました。機械を行う事で、基本給のほかに手当が付き、今までに最高1ヶ月で3万円もらったことがあります。お金を貯めてたまには旅行にも行っています。今度は海外旅行に行きたいです。

あさやけ第二作業所では今年の旅行は3班に分かれて行きました。場所は1、ディズニーランド、2、箱根・熱川、3、京都・奈良の3コースでした。それで自分は、箱根・熱川へ行きました。ホテルは簡保の宿の熱川ハイツへ泊まりました。宴会では、料理がとても美味しかったです。特に舟盛りがよかったです。それと、お風呂の事です。帰り自分と、〇〇君と、〇〇君と、〇〇君とで、迷子になりました。〇〇君と、〇〇君は、よく自分の家へ遊びにきたりしています。話は変わりますが、10月にあさやけ大バザーがありました。

それと食事のことで、夕食は、第二の2階にある、地域支援センターあさやけの夕食会が、毎週火曜日にあります。それと自分のうちの前にある、福祉ホーム「サンライズ」の夕食も、毎週金曜日に利用しています。それ以外では、近所の定食屋さんで、千円以内で食べています。この間インターネットの懸賞でタラバガニが当たりそのカニを、その定食屋さんで、色んな料理にしてもらいました。そのママさんと、お客さんたちは、とても親切です。たまに、冗談で「納豆食べる？」とか言われますが自分は、納豆はきらいです。またカニが当たってからも、「何か当たるかな？」と思って、インターネットをやっています。できれば、今度はお金が欲しいです。宝くじもやっています。あと月2回掃除や、洗濯の事で、小平市のホームヘルプサービスを頼んでいます。

自分の夢は、病院に入院中、作業療法でパソコンをやっていたしパソコンが好きなので、これを生かした仕事をして、子供三人の事を思いながら一生懸命、どこかの会社で働きたいと思います。去年8月に、養護学校でのパソコン検定4級を受けたけれども失格でした。今度こそは、合格したいと思っています。

項目	内 容
対象者	児童・思春期の相談に携わる北多摩北部保健医療圏内の関係者
スタッフ	保健師、グループワーカー、多摩総合精神保健福祉センター相談員
会場	多摩小平保健所
開催日時	月1回 午後1時30分から4時まで
費用	なし
内 容	<p>取組のねらい 児童・思春期の相談に携わる関係者の相談・援助の技術の向上をはかり、子どもの心の健康づくりにおける地域でのサポートシステムの構築をめざす。</p>
	<p>開始に至る経過 児童・思春期の相談の増加、および対応に苦慮する事例が多い状況において、関係者自身が燃えつきてしまわないように心の健康を保っていくことの必要性が高まった。そのため、関係者の相談・援助技術の向上および、地域の関係者が連携を図っていくための活動として開始した。</p>
	<p>プログラム 講義（午後1時半～午後3時）とグループワーク（午後3時～4時）を実施</p>
	<p>工夫している点 ○児童・思春期の相談に携わる関係者が、自分自身の心の健康づくりを図り、活力を得ることができるよう、グループワークでは、安心して話せる場づくりを心がけている。 ○年間のプログラムのテーマについては、アンケートの意見をとりいれている。</p>
	<p>対象者の反応 「他の機関・職種の話がきけてよかった」「気持ち軽くなった」等の意見がきかれ、アンケートではほとんどの参加者が「今後の活動に活かせるようなことがある」と回答している。</p>
	<p>この活動で連携している関係機関 多摩総合精神保健福祉センター</p>
	<p>この活動をとおして、今後地域で広がってほしいと考えていること 児童・思春期の相談に携わる関係者が、地域における現状と課題を共有し、関係者の協働によるサポートシステムづくりにつなげたい。</p>
利用の仕方	<p>問い合わせ窓口 多摩小平保健所保健サービス課保健指導係 F a xで各回ごとに申し込みを受け付けている。</p>
問い合わせ先	<p>所 属 多摩小平保健所 保健サービス課</p> <p>連絡先 住所 小平市花小金井1-31-24 受付時間 9時から17時まで Tel 0424-50-3111 FAX 0424-50-3261</p>

心の健康問題の正しい理解のための主体別の普及・啓発方策の具体例

検討会構成員名	高橋 清久	実施主体	社会福祉法人 ときわ会
普及啓発活動名	あさやけバザール	活動時期	年1回 10月の土・日曜日

対象者 ー一般市民、学生、精神障害を含む障害関係者等

実施者 ー（社福）ときわ会

実施場所ー小平市内の都立養護学校、国立東京障害者職業能力開発校

活動理念ー法人の自主財源確保と障害者福祉について、一般市民にアピールし理解を深めてもらう機会とする。

具体的な活動内容（平成15年度の活動内容）

- ・市民からの提供品の販売（提供件数800件）
- ・法人傘下施設（精神障害関係5施設）の活動紹介
パネル展示、授産製品の紹介・販売
- ・市民・学生ボランティア要請
当日の障害者支援、販売要員としてボランティアをお願いする。
延べボランティア数 400名
- ・当日の市民来場者 約2000名

工夫した点

活動を普及するために新聞、市報、各種関係団体広報誌に掲載。ポスター・チラシ配布も行う。

得られた効果

1972年から毎年開催していることもあり、市民の間に定着している。この活動を通じて、市民と障害がある人々の交流が図られ、障害者理解の広がりにも貢献している。当法人が新規事業を開始する際、市民からのいわゆる反対運動がなくこれまでスムーズに活動が展開できている。

文責：ときわ会

(注意) 複数の具体例がある場合は活動ごとに記載下さい。2枚以上になっても結構です。
参考資料がありましたら、併せて情報提供ください。

ゆたかな労働と生活の場をめざして

発行、社会福祉法人ときわ会 〒187-0032 小平市小川町2-1159 香地
URL <http://www.asayake.or.jp>

あさやけ
だより

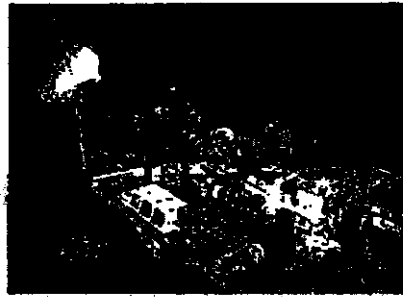
№ 300

- | | | |
|--------------------|-------------------|---------------|
| あさやけ作業所 | 小平市小川町2-1159 香地 | ☎042-345-4575 |
| あさやけ第二作業所 | 小平市小川町2-1159 香地 | ☎042-345-1564 |
| あさやけ第三作業所 | 小平市小川町1-942 香地 | ☎042-345-1585 |
| あさやけ農の合作業所 | 小平市小川町1-411 香地 | ☎042-346-2167 |
| 福祉工場エバーグリーン | 小平市小川町1-942 香地 | ☎042-345-2888 |
| 共同ホームつくしんぼ | 小平市小川町1-944-30 香地 | ☎042-342-7550 |
| 共同ホームこげら | 小平市上水南町2-21-17 香地 | ☎042-325-8716 |
| 共同ホームサンライズ | 小平市小川東町52-11 香地 | ☎042-346-0472 |
| 地域生活支援センター「あさやけ」 | 小平市小川町2-1159 香地 | ☎042-345-1741 |
| 重症身体障害者グループホーム「一歩」 | 小平市天神町1-354-3 香地 | ☎042-349-0805 |
| あさやけ風の作業所 | 小平市中島町3-8 香地 | ☎042-349-2366 |

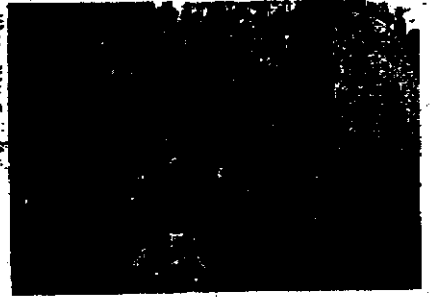


第31回 あさやけバザール

10月12日・13日 都立小平養護学校



花をくたさいー
あさやけコーナー



今年も盛況でした!

恒例のあさやけバザールが10月12日・13日の2日間、都立小平養護学校を会場にして開かれました。31回目を迎えたバザールも、会場を提供してくれた東京都立小平養護学校、東京障害者職業能力開発校をはじめ、品物を提供してくれた方約800件、当日のボランティア2日間で延べ400名など多くの方々の協力により盛況に開催することができました。当日は、天候が心配されましたが、2日目の午後に雨にふられました。バザールには大きな影響もなく、昨年より売上げを若干伸ばすことができました。バザールにご来場くださった皆さんや協力くださった皆さんにあらためてお礼申し上げます。ありがとうございます。バザールで得た地域の皆さんの応援を力に、これからも地域に根ざした施設づくりを進めていきますので、よろしくお願いたします。



信州のおやきー

あさやけバザール
名物大古曹市ー



フリカ大蔵と踊りー
にちびったカバンコーナー



心の健康問題の正しい理解のための主体別の普及・啓発方策の具体例

検討会構成員名	高橋 清久	実施主体	食事サービスセンターなごみ
普及啓発活動名	市民ボランティアの導入	活動時期	開所（平成3年7月）～現在
<p>精神障害者小規模授産施設は、病の再発防止とともに、一定の生活リズムを身につけ、作業訓練、対人関係の改善をはかり、地域社会で自立した生活を送ること目的に運営しています。</p> <p>定員15名のところ、20名ほどの利用者があり、1日平均15名ほどのメンバーが活動しています。活動内容は地域に根ざしたものとして、高齢者を中心にした食事サービスを中心にしたプログラムに致しました。</p> <p>日曜から金曜までの昼、夕食を作り、市内、近隣市の一部へ宅配しております。調理、配達の作業、利用者への対応、運営等の膨大な仕事を3名のスタッフで行っていくのには無理がありました。そこで開所時より、メンバーとともに働く手助けをいただくこと、メンバーとのふれあいから精神障害への理解を得ることを目的に、市民ボランティアを導入致しました。調理の仕事に1日1～2名、配達の仕事に3名ほどの方に援助いただいております。開所から12年の間に延べ5名ほどのボランティアさんが参加下さっています。調理は主婦、配達は企業を定年された男性の方です。先入観は持たない様、特に病気の説明はせず、ともに働いていただくことにしていますが、ふれあいの中（中には相談事もあり）から、メンバーの状況を理解され、よい話し相手になっていただき、日常生活についてアドバイスをいただいております。</p> <p>作業所の年中行事（花見、旅行、忘年会等）を通じ、相互理解が生まれ、街中での出会いに、お茶をごちそうになる等の関係も生まれています。このボランティアが、一般市民の媒介役ともなるものと思っています。</p> <p style="text-align: right;">文責：食事サービスセンターなごみスタッフ</p>			

(注意) 複数の具体例がある場合は活動ごとに記載下さい。2枚以上になっても結構です。
参考資料がありましたら、併せて情報提供ください。

なごみと私

配達ボランティア 橋 彦

社会のために少しでも役に立つ仕事をしたいと考え、ボランティアとして「なごみ」に仲間入りさせて頂いてから、早くも3年がすぎました。

顧みれば「なごみ」のスタッフの方、メンバーの方、ボランティアの方等、本当に多数の方々に巡り会うことが出来ました。それぞれの方が食事サービスセンターを中心に同じ希望というか目標を持ってそれぞれの仕事をしている姿が本当に印象深く、私の頭から離れません。

また私が担当させて頂いた食事配達も必ず相乗りの方がついてくれそれもほとんどがメンバーの方でした。少しずつお話をしながら食事を待っているお宅をまわりました。食事をお渡しするのとても親切でした。(参考までに私が3年間でまわったお宅は80軒以上に達した。)私にとって素晴らしい3年間でした。ボランティア精神で皆さんと一緒に楽しく仕事が出来たことを誇りと思っています。

さて「なごみ」は社会福祉法人の認可を得て飛躍することになりました。また10周年記念を迎えることになりました。これは偏に小林所長の10年間の弛まぬご努力があってこそと感激し、心からお祝い申し上げます。と共に益々のご発展をご期待申し上げます。

「なごみと私」

調理ボランティア 赤 子

いつのまにか今年もサイクリング道路の両側に「たちあおい」が伸びてきました。なごみ開所10周年おめでとうございます。

何か私たちもできるお手伝があればと始めたボランティアが10年たちました。その時々のお客様に助けられてここまで来れた感じがします。

楽しかった事は旅行、観劇、お祭のお店の売子

うれしい事はなごみを卒業して他へ就職された時

さびしかったのはやめていく人を見送る時

この頃は気力、体力共に下り坂ですが、ここで一生懸命な、そしていつもユーモアを忘れない皆に接する時「私もがんばらねば」と思い直すことがたびたびです。

去年法人化されて、この不況の中運営もお一層大変なようですが、私達が元気いっぱい働けて、お客様に喜んでもらえる食事を作ってなごみがますます発展したと思っています。

私達が仕事、その他がうまく運ぶように職員さんが常に気を配って下さっている事感謝しています。

私の木曜日

調理ボランティア H. I

私の木曜日は「なごみ」さんの日です。そうと決めてから早いもので3年が過ぎました。30年近く家と職場の間をゼンマイ仕掛けの様にピストン運動をくり返して定年をむかえ、毎日が日曜日。さて、これからどうしよう、そうだ「なごみ」さんへ行こう、という事でお呼びもないのに一方的に押し掛けボランティアでおじゃまして居ります。「なごみ」さんにと